

組合そくほう

全大教ホームページ <http://www.zendaikyo.or.jp/>

信州大学教職員組合 URL <http://www7a.biglobe.ne.jp/~akarenga/>

信州大学教職員組合事務局
直通電話：0263-33-0933 (FAX 兼用)
内線：811-2341

akarenga@kbfbiglobe.ne.jp

通算 892 号 2020 年 10 月 9 日発行

松本キャンパス組合支部統合ワーキングチームの立ち上げ

10月7日の中央執行委員会において、松本キャンパス組合支部統合ワーキングチームの委員が承認され、松本キャンパスの4つの支部について、支部統合の可能性を議論し、その準備を始めることになりました。

まず支部統合によるメリットとデメリットを洗い出し、その後、組織のスリム化や人材の有効活用について議論する予定です。議論はできるだけオープンにします。委員以外の方からのご意見等も歓迎いたします。

本年度中に答申をまとめられるように進めていきます。



格差社会と労働組合—自己責任論の罠に陥らないために

加藤善子（松本キャンパス合同支部・代議員）

近年広く社会に受け入れられ人々を競争に駆り立てる考え方に、自己責任論があります。自己責任論とは、個人の成功や失敗は、その人の能力や努力によるものであるという考え方で、成功も失敗も、その結果はその個人が引き受けるべきであるという風潮に繋がります。大規模な社会調査によっても明らかになっているのですが、自身の成功・失敗の納得の仕方は二分されます。成功した人は、その成功が自分の能力と努力の結果だと考え、不運にも成功しなかった人は、それは社会の仕組みが悪いと考えるのです。成功している人から見ると、失敗した人は努力をしなかったということになり、その責任は自分自身が負うべきだと考えます。そして格差社会は正当化されます。

このような自己責任論は、ある一面では正しいのですが、人々の現在の境遇をすべて説明できるものでも、正当化できるものでもありません。私は教育社会学という分野を専門としていますが、この分野の関心事の一つに、「生まれによって教育を受ける機会に不平等が生まれていないか」という「教育の機会均等」を問う分野があります。このテーマは古く新しいテーマで、特にこの十数年では格差社会論の文脈において脚光を浴びるようになりました。学校で良い成績を取ってより高い学歴を獲得し、高い地位に就くのは、やはり親が高い学歴を持っている子どもであり、収入の多い家庭出身であることが多いのです。つまり成績は、その子どもに特有の才能や思考力によるものというよりは、成績に変換される知識や思考力、

勉学に費やす時間的・金銭的・精神的な安定と余裕といったものが、その子どもの育つ家庭環境によって作られているということになるのです。

教育や学校に競争主義が持ち込まれ、他のサービスと同様に学校教育が選ばれるようになると、経済力のある親が、より高く良質な教育を提供する学校に子どもを入れようとして移動し、経済力の低い家庭の子どもは、やはり経済力の低い家庭の子どもと、劣悪な教育環境に残されるということになるのです。そうすると、ますます学力差は広がり、教育の機会均等は実現されません。

このような状況をどのように打破するべきなのかというと、富の再分配につきます。小学校や中学校は、百貨店のように、売上げが少なければその地域から撤退するということできません。こういった学校にこそ、手厚く補助金を配分し、優秀な教員を配置して良質な教育を提供する必要があります。人権に配慮し、民主的な社会をつかっていくためには、「自分の責任なのだから自分でなんとかしろ」と相手に宣告するのではなく、共に支える仕組みが機能していなくてはなりません。

そして、考えてみれば、成功した人たちは能力があり努力した人たちであることは間違いないにせよ、成功しなかった人たちがおしなべて努力せず能力もないということはありません。就職氷河期に大学生だった人たちは能力がなかったから就職できなかったわけではなく、バブル期には皆が優秀だったから就職できたわけでもないのです。この自己責任論がいかにか浅薄な考え方であるか、少し考えてみればすぐにわかります。病気や怪我、介護に直面したり、大規模災害や経済危機に見舞われたりすれば、すぐに転落する危険が誰にでもあるのです。

そもそも、労働組合も民主的な労働環境をつくるために組織されたもので、団体交渉権は労働基本権として私たちが持っている権利なのです。互いに助け合うことが、結果的に自分を守ることにもなります。大学においても、少し前までは互いに折り合いをつけて乗り切ってきたことが個人の問題として考えられるようになると、同僚からの協力や共感は得づらくなっていきます。内部で解決されずにパワハラやセクハラ、いじめといった問題となって、EPやセクハラ相談員への相談件数が年々増加しています。教員の負担は年々増えており、私も十分な研究時間もエネルギーも確保できず、無理をして体調を崩すことがあります。家族との時間も十分に取れません。

このような日々の悩みを共有し、どうすれば少しでも良い労働環境にしていけるか、心を許して話し合える組合にしていきたいと思っています。仲間がいますし、法的なサポートも提供してもらえます。職場でお困りのことがあれば、組合に相談してください。個人の問題にせず、みなで励ましあって、取り組んでいきましょう。

〈長野ろうきん〉のキャッシュカードは
ATMお引出し手数料

手数料

その場で!

全額

キャッシュバック

0円

コンビニATMでも使えます

【手数料は実質0円】フルキャッシュバック

全国の〈ろうきん〉、セブン銀行などのコンビニ、ゆうちょ銀行、
その他の金融機関のATMでお引出しいただけます。

※設置場所・時間帯によってはご利用いただけない場合があります。

はたらく人の想いと生きる
長野ろうきん



1

長野ろうきん

検索